

放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携に関する
実施状況調査等の結果について

1 概要

本市における放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携の在り方を検討するため、両事業の連携した取組みの実施状況に係る運営主体向けの調査並びに連携した取組みである行事の参加者及び両事業の登録・参加者向けのアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたもの。

	実施状況調査	アンケート調査 A	アンケート調査 B
調査学区	加茂、東宮城野、袋原及び館	同左	加茂及び東宮城野
調査対象	両事業の運営主体	両事業の登録・参加者	行事の参加者
調査期間	9/21～10/5	同左	加茂：9/7～9/28 東宮城野：10/5～10/26
調査手法	両事業の運営主体あて調査票を送付	両事業の運営主体を経由し登録・参加者あて調査票を送付	両事業の運営主体を経由し参加者あて調査票を送付
調査内容	資料 3 のとおり	資料 4 のとおり	資料 5 のとおり
回答率等	—	配布数：126 回答数：110 回答率：87.3%	配布数：96 回答数：73 回答率：76.0%

2 調査結果

(1) 実施状況調査（運営主体を対象とした調査）

①連携に関し必要と考えるもの等

項目	必要と考えるもの				これまでの取組み				今後の取組み			
	東	加	袋	館	東	加	袋	館	東	加	袋	館
互いの活動の情報交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
両事業のスタッフ間での定期的な打ち合わせ	○	○	○		○	○			○	○	○	
放課後子ども教室の活動プログラムに、放課後児童クラブ登録児童が参加	○	○	○		○		○		○	○	○	
両事業に登録・参加している児童の情報共有	○	○	○		○	○	○		○	○	○	
一方が実施するイベント等におけるスタッフ間の協力	○	○		○	○	○			○	○		
共同でイベントを実施	○	○			○	○			○	○		

②連携した取組みの内容等

項目	内容
互いの活動の情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 年度当初に両事業のスタッフが双方の年間スケジュールを共有する（加茂）。 ▶ 双方の活動内容を記載したチラシ等を共有する（東宮城野・袋原）。 ▶ 児童センターの活動内容に関する情報を子ども教室側へ提供し、意見をもらう機会を設ける（館）。
両事業のスタッフ間での定期的な打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 年度当初、双方の活動予定についてスタッフ間で意見交換を行う（加茂）。 ▶ 子ども教室のスタッフが活動内容を検討するに際し、児童センターのスタッフも検討に加わる（加茂）。 ▶ 両事業共同の活動やそれぞれの事業を検討するに際し、双方のスタッフ間で事前に打ち合わせを行う場を設ける（東宮城野・袋原）。
放課後子ども教室の活動プログラムに、放課後児童クラブ登録児童が参加	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本年度中3回、子ども教室のプログラムに児童クラブ登録児童・児童センターのスタッフ（1～2名）が参加する機会を設けた。なお、児童の帰宅方法等については事前に保護者の意向を聞き取り対応した（加茂）。 ▶ 毎週水曜日、児童クラブ登録児童が子ども教室の活動に参加し、その後、児童館に登館することとしている（東宮城野）。 ▶ 子ども教室の活動に参加した後、児童館へ来館することとしており、当該活動への参加の有無は、事前に保護者から連絡帳を通し情報提供を受ける（袋原）。
両事業に登録・参加している児童の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 年度当初、子ども教室から児童館へ児童の情報が提供される（加茂・東宮城野）。 ▶ 児童センターの事業に子ども教室のスタッフが参加する際に、参加児童の情報を事前に共有する（加茂）。 ▶ 児童館のスタッフが子ども教室の活動に参加する際に児童の情報を共有する（袋原）。
一方が実施するイベント等におけるスタッフ間の協力	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 児童センター主催の行事に子ども教室のスタッフが協力する（加茂）。 ▶ 児童館まつりに子ども教室のスタッフが参加する（東宮城野）。
共同でイベントを実施	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 加茂中学校校区単位のイベントに両事業のスタッフが参加する（加茂）。 ▶ 小学校 PTA、放課後支援をすすめる会、おやじの会等の関係団体が主催する会議や行事に両事業のスタッフが参加する（東宮城野）。

(効果)

- ▶ 児童クラブ登録児童が子ども教室の活動プログラムに参加することにより、地域の大人との交流や異年齢交流の機会を通し体験の幅が広がる (加茂・袋原・館)。
- ▶ スタッフ間の連携により、様々な経験が生まれ新しいアイデアが生まれる (館)。
- ▶ 児童の情報を共有することにより、児童の新たな行動特性等を把握できる (東宮城野・加茂)。
- ▶ 互いの活動を共有することにより、活動内容の重複回避、連携機会の検討につながる (加茂)。
- ▶ イベント時にスタッフ間で協力することにより、他方の事業内容の理解や児童の情報把握につながる (東宮城野・加茂)。

(課題)

- 児童センターと子ども教室に一定の距離があるため、児童の安全確保の観点から、児童センタースタッフの引率が必要である (加茂)。
- 子ども教室に児童センタースタッフが参加する際やスタッフ間で定期的な打ち合わせを行う際の人的な調整が必要である (加茂)。
- 子ども教室のプログラムに児童クラブ登録児童が参加する際の児童の出欠席管理や保険適用について整理する必要がある (袋原)。
- 両事業の連携した取組みを新たに実施することに伴い、新たな人員の確保が必要となる (東宮城野)。

③小学校との関わり

- 児童の病気や怪我について情報共有することにより、児童へのきめ細かい対応が可能となる (加茂)。
- 教室利用の際等に小学校の協力を得ながら、両事業の連携した取組みを実施している (東宮城野)。
- 年2回、児童館及び小学校における児童の様子に関し情報交換を行っている (館)。

④保護者からの意見

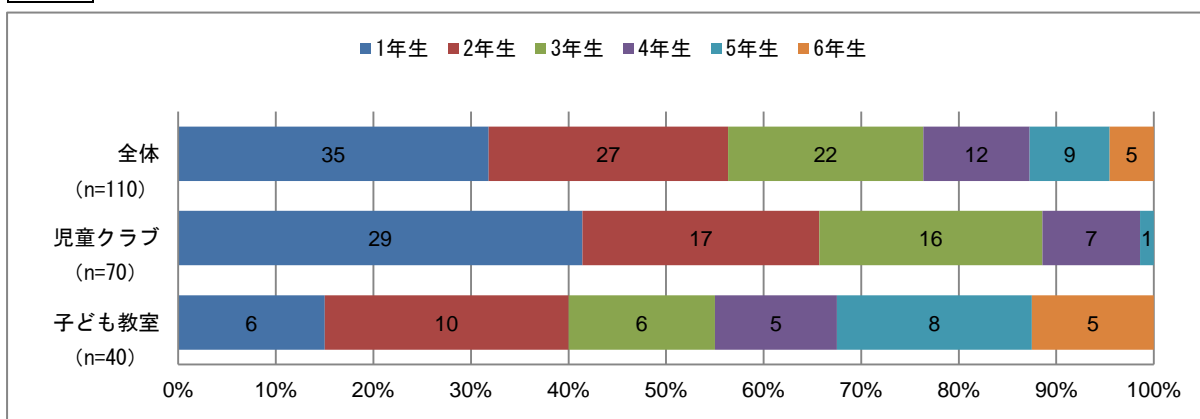
- 両事業の連携した取組みの実施にあたり、複数の大人の目があるため安心感がある。

⑤事業に関する意見

- 両事業の関係者間による顔の見える関係づくりが大切である (東宮城野)。
- 人材確保が困難なため、できる部分から連携を始めていく必要がある (館)。

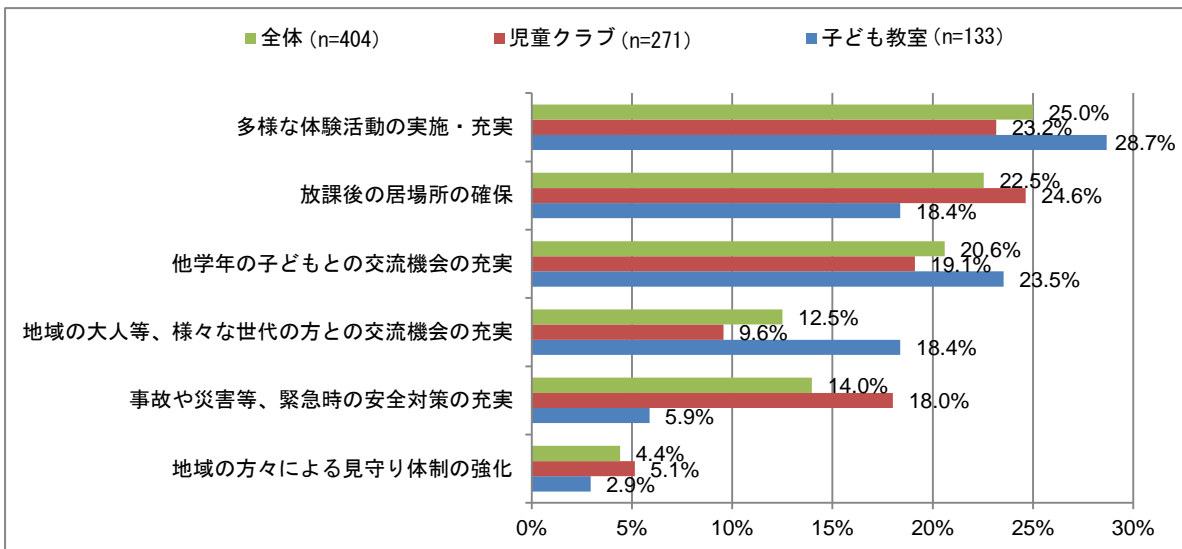
(2) アンケート調査 A (両事業の登録・参加者を対象とした調査)

①学年



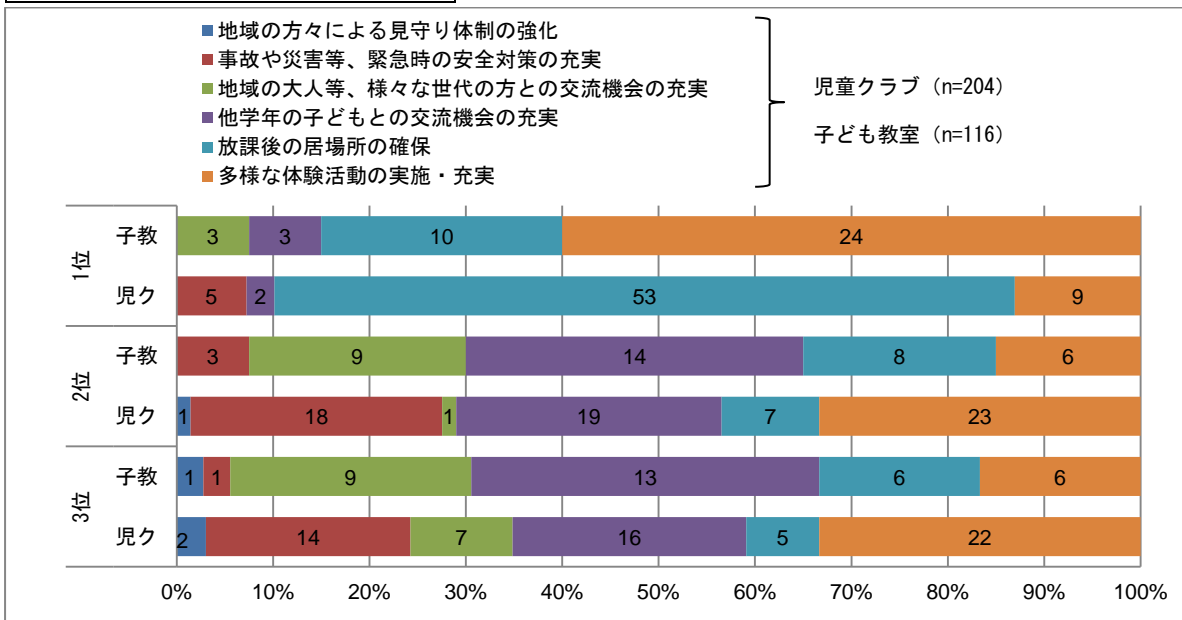
- 全体の回答数に占める低学年児童の割合が 76.4% (児童クラブ 88.6%、子ども教室 55%)、高学年児童の割合が 23.6% (児童クラブ 11.4%、子ども教室 45%) となっている。

②役割として期待するもの（複数回答）



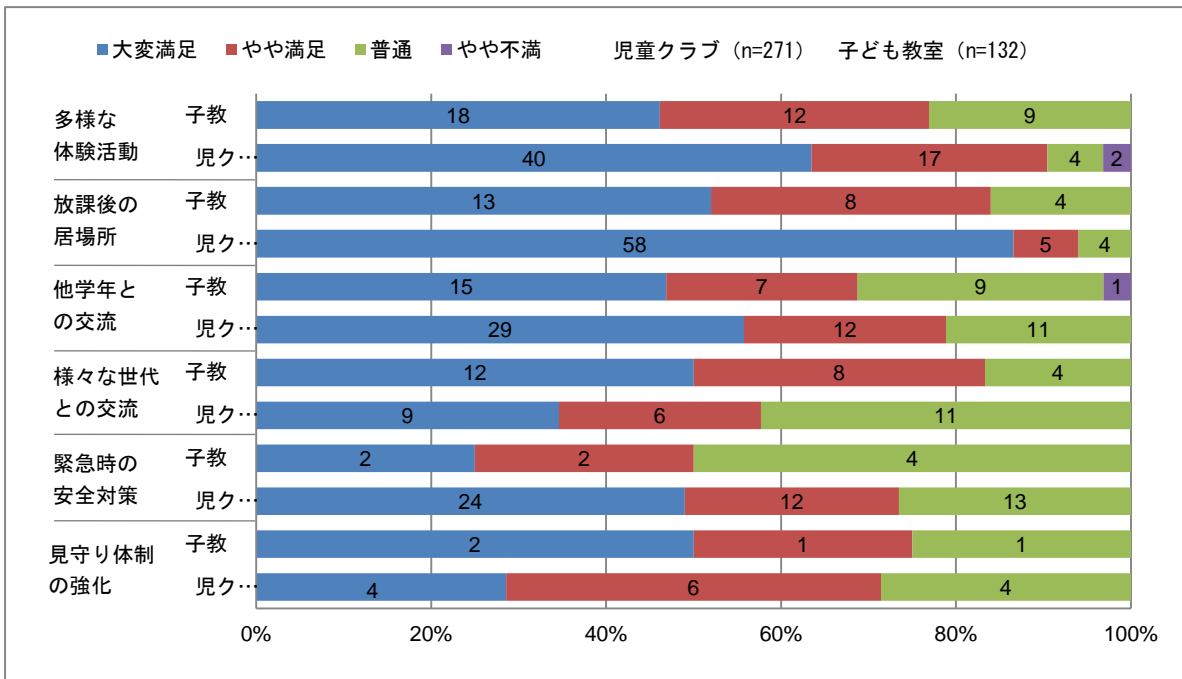
- 児童クラブでは、「放課後の居場所の確保」「多様な体験活動の実施・充実」が、子ども教室では、「多様な体験活動の実施・充実」「他学年の子どもとの交流機会の充実」が 20%を超えて高い割合となっている。
- 児童クラブでは、「事故や災害等、緊急時の安全対策の充実」を、子ども教室では、「地域の大人等、様々な世代の方との交流機会の充実」を他方の事業より重視する傾向にある。

③役割として特に強く期待するもの



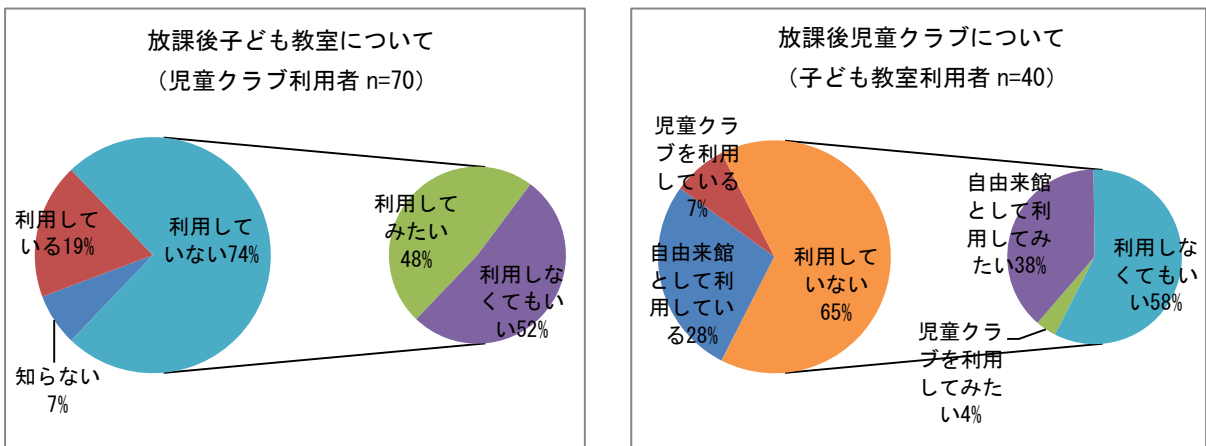
- 児童クラブでは、「放課後の居場所の確保」が、子ども教室では、「多様な体験活動の実施・充実」が役割として特に強く期待されている。
- 2位及び3位の構成比率から、前述の設問と同様、児童クラブでは、「事故や災害等、緊急時の安全対策の充実」を、子ども教室では、「地域の大人等、様々な世代の方との交流機会の充実」を他方の事業より重視する傾向にある。

④期待する役割の満足度



- 児童クラブでは、「放課後の居場所の確保」「多様な体験活動の実施・充実」、子ども教室では、「放課後の居場所の確保」「地域の大人等、様々な世代の方との交流機会の充実」において、80%以上が満足と回答している。
- 満足と回答した理由として、児童クラブでは、「子どもだけではなく、保護者同士も交流する機会を設けているため」「職員が丁寧に児童を見守っており緊急時の連絡が迅速なため」、子ども教室では、「家庭では体験できない様々な遊びができるため」「児童が他学年の子どもや地域の大人等と積極的に会話するようになったため」等が挙げられた。

⑤児童館・児童クラブ及び子ども教室の利用希望等



- 児童クラブ利用者で子ども教室を利用していない保護者のうち、約48%が「利用してみたい」と、子ども教室利用者で児童館及び児童クラブを利用していない保護者のうち、約38%が「自由来館として利用してみたい」と回答している。

(児童クラブ利用者が子ども教室を利用しない理由)

- 子ども教室から児童センターまで一定の距離があるため。
- 児童センターの利用で十分なため。
- 利用希望日時と子ども教室の開設日時が合わないため。

(子ども教室利用者が児童館又は児童クラブを利用しない理由)

- 児童クラブが自宅と反対方向にあり、学校からも距離があるため。
- 授業時間の都合で児童クラブの利用時間が短くなるため。
- 保護者が放課後に家にいるため。
- 塾や習い事等で時間が確保できないため。

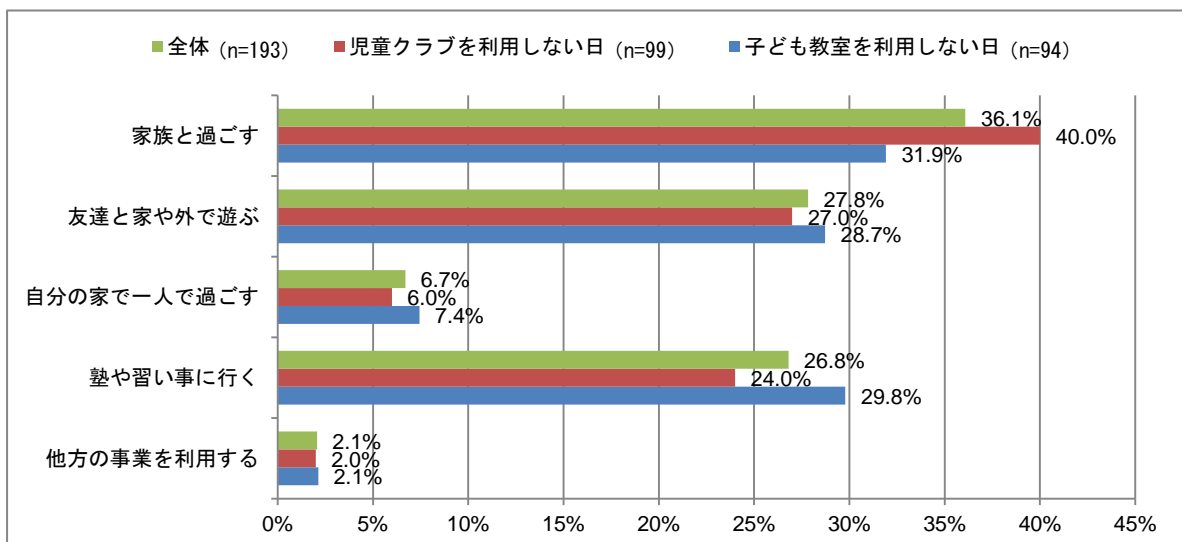
(児童クラブ登録児童の子ども教室利用に関する考え)

- 様々な大人や子どもと関わり、幅広い体験が期待できる。
- 子ども教室から児童クラブまでの移動が心配である。
- 児童の出欠席について、小学校と児童館に事前に連絡することが負担となる。
- 児童クラブと子ども教室の行事の開催日が重ならないようにしてほしい。

(子ども教室利用児童の児童クラブ利用に関する考え)

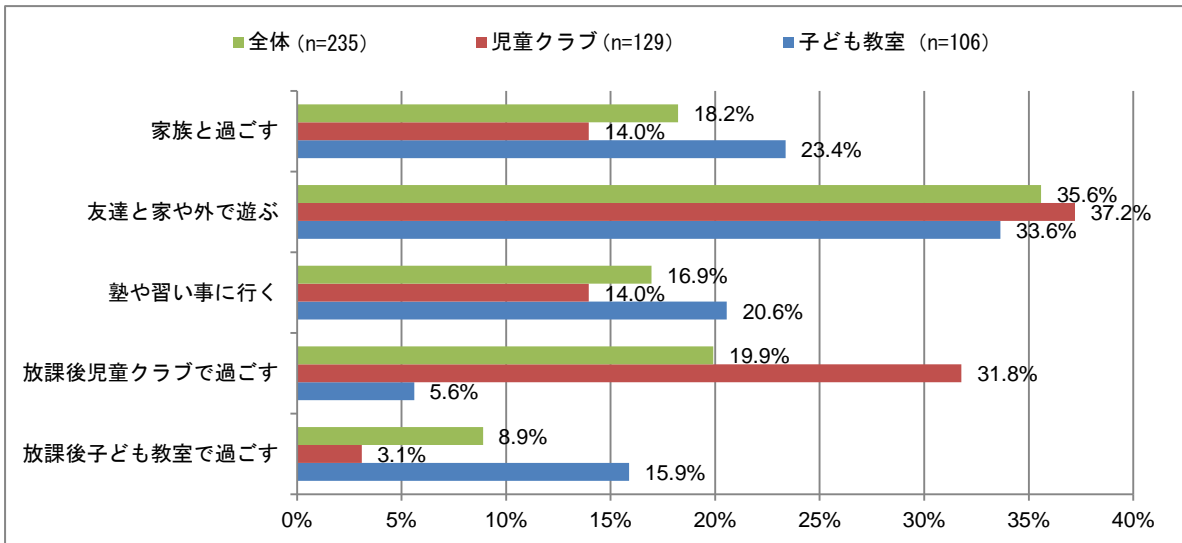
- 児童クラブは学校敷地外にあるため移動に不安がある。
- 児童クラブ利用者の増加に伴う職員の負担増加が懸念される。

⑥児童クラブ又は子ども教室を利用しない日の放課後の過ごし方 (複数回答)



- 児童クラブを利用しない日は、「家族と過ごす」が40%、「友達と家や外で遊ぶ」「塾や習い事に行く」が約25%、子ども教室を利用しない日は、「家族と過ごす」「友達と家や外で遊ぶ」「塾や習い事に行く」が約30%となっている。

⑦子どもに放課後をどのように過ごしてほしいか（複数回答）



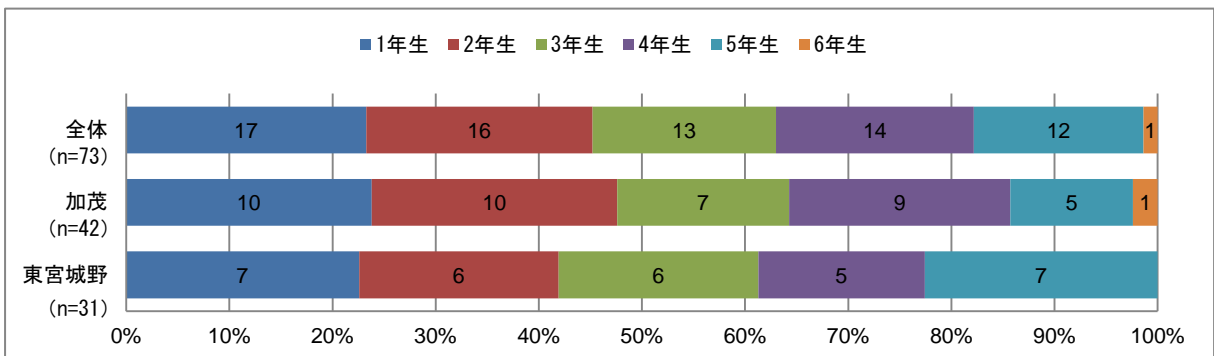
- 児童クラブ利用者では、「友達と家や外で遊ぶ」が37.2%と最も高く、次いで「放課後児童クラブで過ごす」が約30%、子ども教室利用者では、「友達と家や外で遊ぶ」が33.6%と最も高く、次いで「家族と過ごす」「塾や習い事に行く」が約20%となっている。
- 子ども教室利用者は、児童クラブ利用者より「家族と過ごす」「塾や習い事に行く」を重視する傾向にある。

⑧子どもの放課後の過ごし方に関する考え

- 様々な人と関わり、様々な体験ができると良い。
- もう少し親子の時間を増やしたい。
- 地域の大人等、様々な世代の方々との関わり方を学ぶ機会としたい。
- 学年が異なる子どもとの交流を通し、思いやりの心を育てほしい。
- 子ども同士や大人との関わりの中でコミュニケーション能力を養ってほしい。

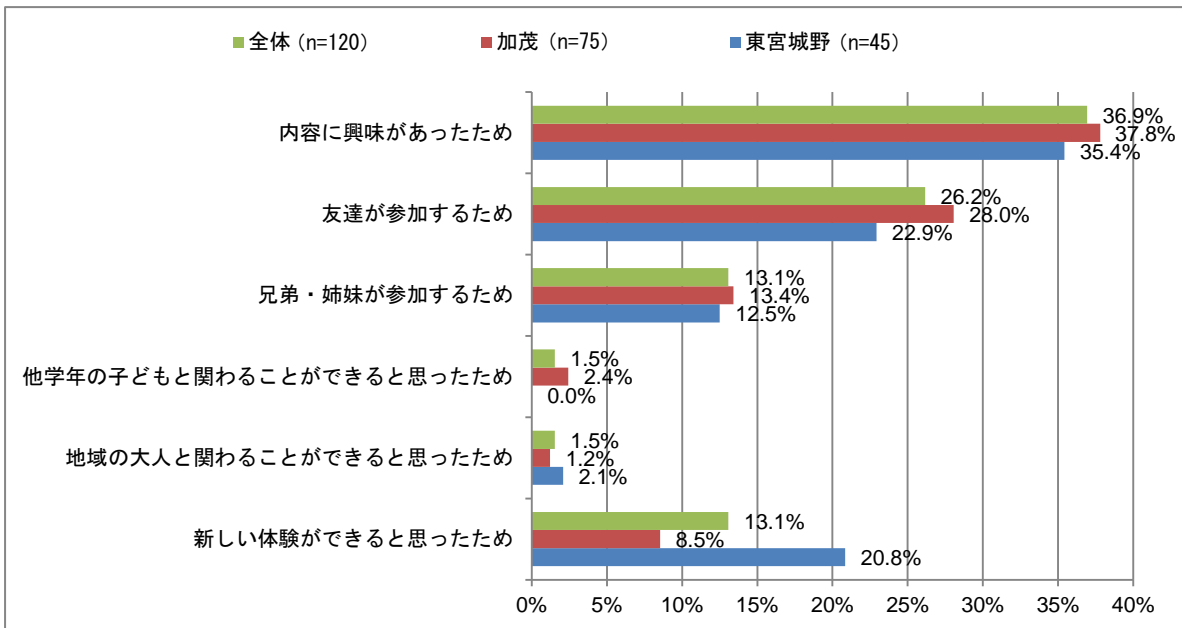
(3) アンケート調査B（両事業の行事に参加した方を対象とした調査）

①学年



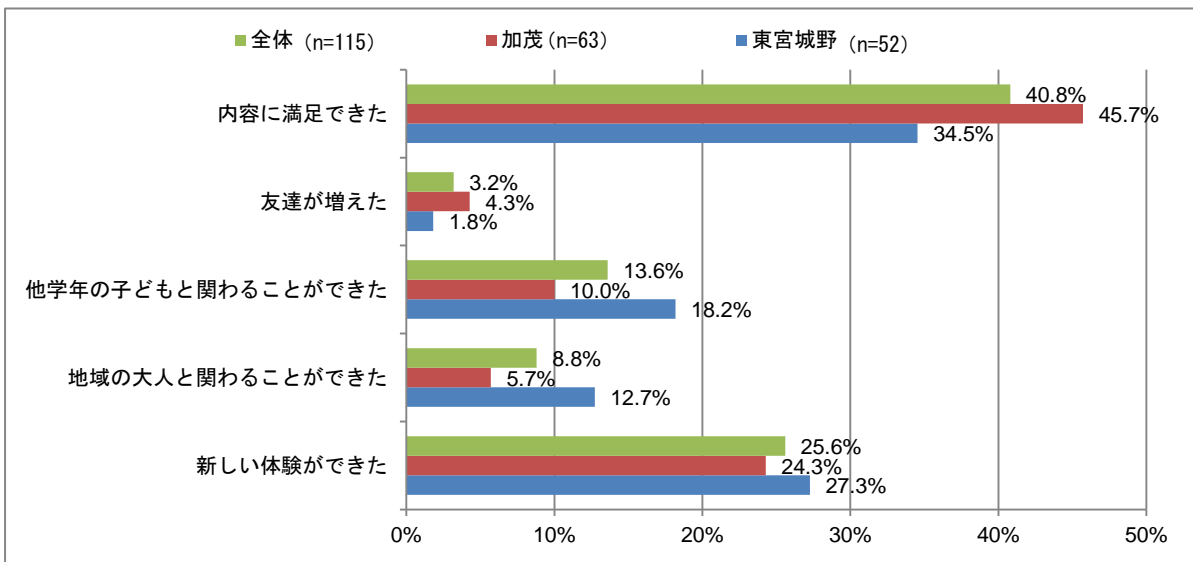
- 全体の回答数に占める低学年児童の割合が63%（加茂64.3%、東宮城野61.3%）、高学年児童の割合が37%（加茂35.7%、東宮城野38.7%）となっている。

②子どもが行事に参加した理由（複数回答）



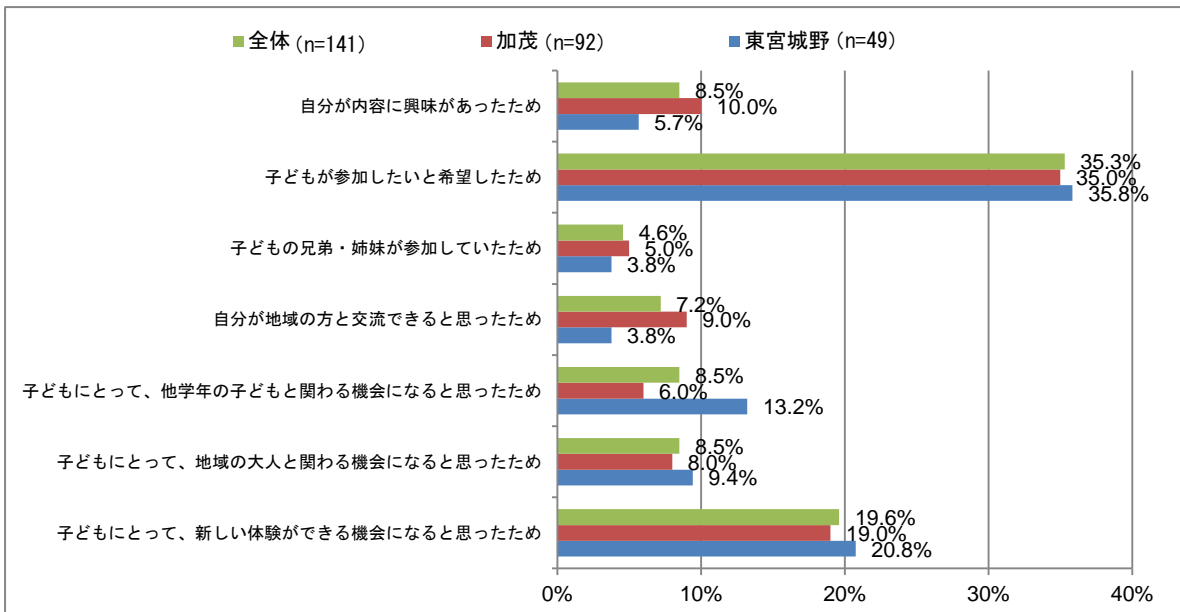
- 加茂の行事では、「内容に興味があったため」が37.8%と最も高く、次いで「友達が参加するため」が28%、東宮城野の行事では、「内容に興味があったため」が35.4%と最も高く、次いで「友達が参加するため」「新しい体験ができると思ったため」が約20%となっている。
- 東宮城野の行事に参加した児童は、加茂のそれより「新しい体験ができる」を重視したうえで参加している。

③子どもが行事に参加して良かった点（複数回答）



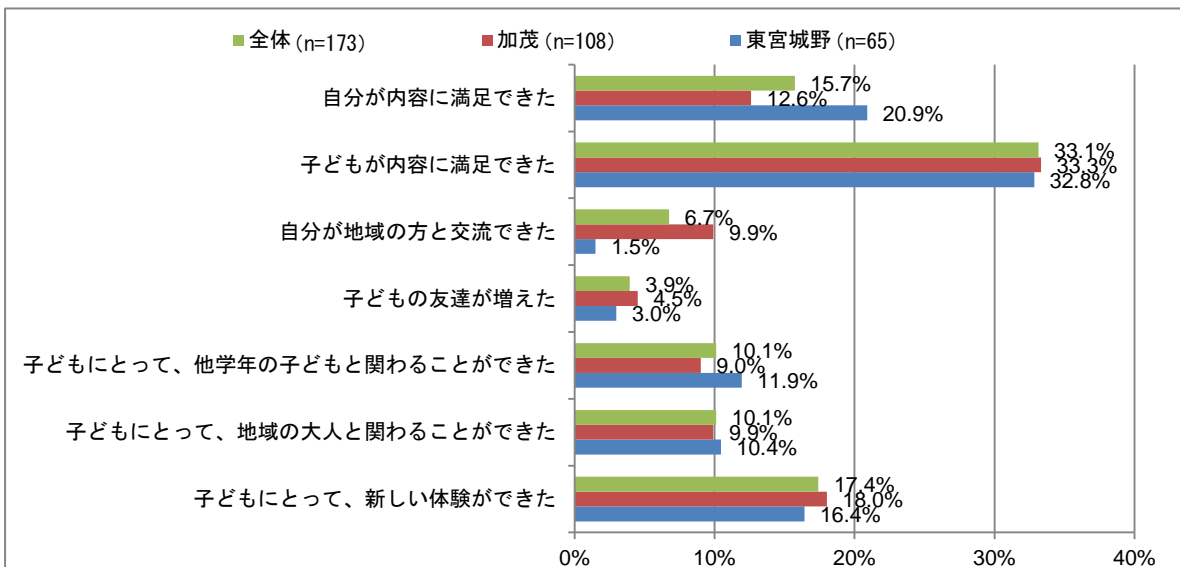
- 両行事ともに、「内容に満足できた」が30%を超えて最も高く、次いで「新しい体験ができた」が20%を超える割合となっている。
- 東宮城野の行事に参加した児童は、加茂のそれより「他学年の子どもと関わることができた」「地域の大人と関わることができた」をより評価している。

④保護者が子どもを行事に参加させた理由（複数回答）



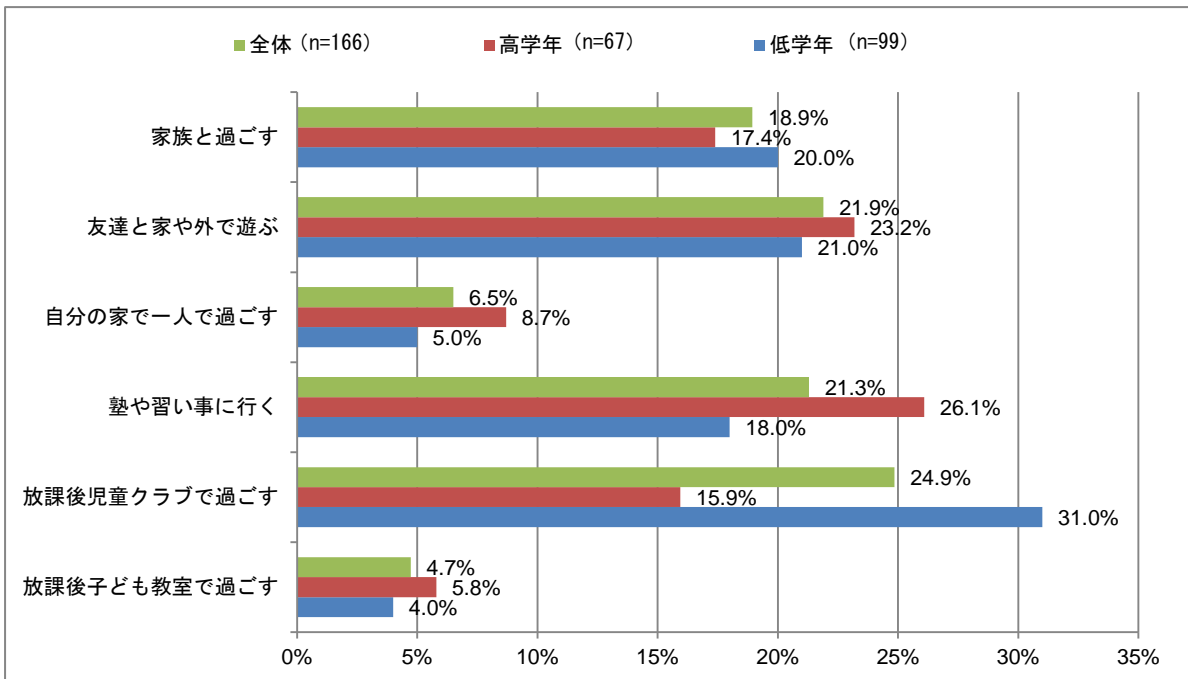
- 両行事ともに、「子どもが参加したいと希望したため」が約35%と最も高く、次いで「子どもにとって、新しい体験ができる機会になると思ったため」が約20%となっている。
- 東宮城野の行事に参加した児童の保護者は、「子どもにとって、他学年の子どもと関わる機会になると思ったため」、加茂のそれは、「自分が内容に興味があったため」「自分が地域の方と交流できると思ったため」を他方のそれより重視したうえで参加している。

⑤保護者が子どもを行事に参加させて良かった点（複数回答）



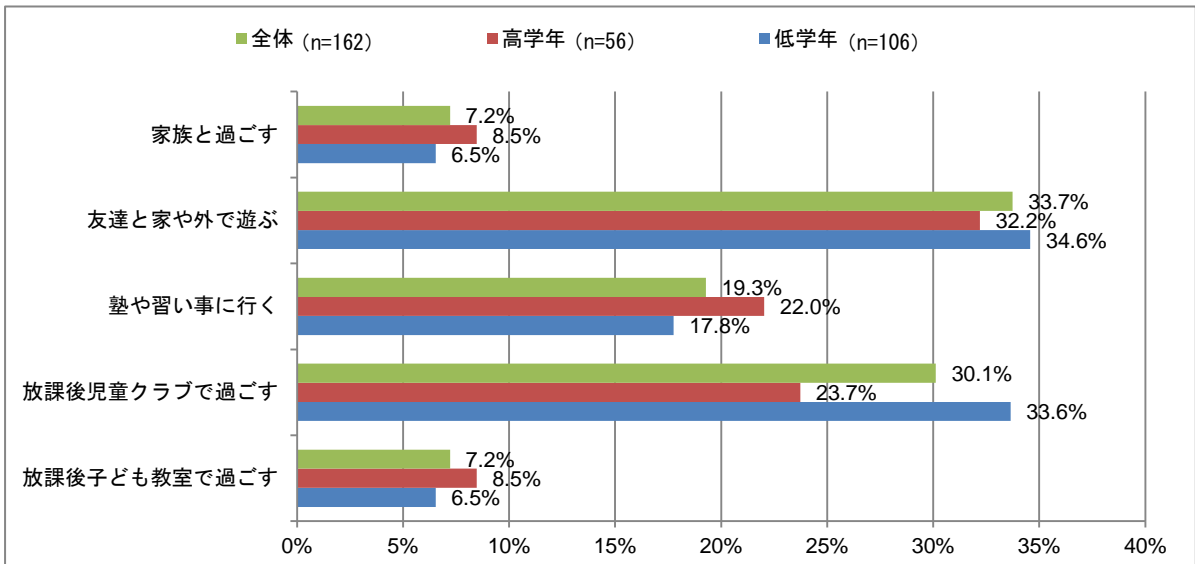
- 加茂の行事では、「子どもが内容に満足できた」が33.3%と最も高く、次いで「子どもにとって、新しい体験ができた」が18%、東宮城野の行事では、「子どもが内容に満足できた」が32.8%と最も高く、次いで「自分が内容に満足できた」が20.9%となっている。
- 東宮城野の行事に参加した児童の保護者は、「自分が内容に満足できた」、加茂のそれは、「自分が地域の方と交流できた」を他方のそれより、より評価している。

⑥放課後の主な過ごし方（複数回答）



- 低学年児童では、「放課後児童クラブで過ごす」が31%と最も高く、次いで「友達と家や外で遊ぶ」「家族と過ごす」が約20%、高学年児童では、「塾や習い事に行く」が26.1%と最も高く、次いで「友達と家や外で遊ぶ」が23.2%となっている。
- 高学年児童は、低学年児童より「塾や習い事に行く」「自分の家で一人で過ごす」傾向にある。

⑦子どもに放課後をどのように過ごしてほしいか（複数回答）



- 低学年児童では、「友達と家や外で遊ぶ」「放課後児童クラブで過ごす」が30%を超え、高学年児童では、「友達と家や外で遊ぶ」が32.2%と高い割合となっている。
- 低学年児童は、「放課後児童クラブで過ごす」、高学年児童は、「塾や習い事に行く」を他方より重視する傾向にある。

⑧行事に関する感想、要望、改善点等

- 子どもが楽しめるような工夫がなされていた。
- 子どもの成長を見ることができて良かった。
- 大人から子どもまで楽しめる内容であった。
- 行事の手伝いを通して他児の保護者や地域の方々とコミュニケーションを図る機会となった。
- 子どもに責任感を感じさせるきっかけとなった。
- 子どもの自主性や積極性を活かせる活動であった。
- 大人が複数いることにより、子どもが安心して活動できていた。

⑨子どもの放課後の過ごし方に関する考え（再掲）

- 様々な人と関わり、様々な体験ができると良い。
- もう少し親子の時間を増やしたい。
- 地域の大人等、様々な世代の方々と関わり方を学ぶ機会としたい。
- 学年が異なる子どもとの交流を通し、思いやりの心を育ててほしい。
- 子ども同士や大人との関わりの中でコミュニケーション能力を養ってほしい。

3 まとめ

（1）実施状況調査

各事業の人員体制や児童クラブと子ども教室の物理的距離等から、両事業の連携が困難な地域があり、そのような地域では人材確保、児童の出欠席の確認、保険適用の整理等が課題として挙げられました。

（2）アンケート調査 A

保護者が両事業の役割として強く期待するものとして、「多様な体験活動の実施・充実」、「放課後の居場所の確保」、「他学年の子どもとの交流機会の充実」が主に挙げられました。また、児童クラブでは、「事故や災害等、緊急時の安全対策の充実」を、子ども教室では、「地域の大人等、様々な世代の方との交流機会の充実」を他方の事業より重視する傾向にありました。

（3）アンケート調査 B

行事に参加した児童より、内容に関する評価に加え、「新しい体験ができた」、「他学年の子どもと関わることもできた」、「地域の大人と関わることもできた」等の意見が挙げられました。

また、保護者より、内容に関する評価に加え、「子どもにとって新しい体験ができた」等の意見があったほか、「自分が他の児童の保護者や地域の方々とコミュニケーションを図る機会となった」、「大人が複数いることにより、子どもが安心して活動できていた」との感想が寄せられました。